

# 泉

若葉学習会専修学校報 No.639

2020 SEPTEMBER



## 運が悪いコロナ世代の私達 行きたかったな大山登山

米子校舎 中学2年 山中 美来

若葉には小学5年生から通ってくれている果凛さん。写真のように、いつも笑顔で明るい女の子です。



米子校舎 中学2年  
山中 果凛さん

君たち  
僕たち

今回紹介するのは松江市立第二中学校に通う中学三年生の二岡美紅さんです。



松江校舎 中学3年  
二岡 美紅さん

「米子ジュニアハンドボールクラブ」に所属している彼女。小学3年生から始めたそう、月曜、火曜、金曜日が練習日とのこと。全国大会もあるそう、出場に向けて、ひじとか傷だらけになるほどのハードな練習をしているそうです。「でも、ハンドボールはすごく楽しいですよ。」と嬉しそうに話してくれました。残念ながら

から中学の部活にはハンドボール部がなく、バドミントン部に入部。バドミントンも楽しいとのこと。バドミントン、ハンドボールの練習と、へとへとにもかかわらず、火曜、木曜、土曜日は若葉での勉強。居眠りもせず、授業に全力集中。若葉での勉強は楽しくよくわかるので、学校の成績が上がったそうです。また、他校の友だちがたくさんでき、おしゃべりできるのも楽しみの一つだそうです。

将来の夢はハンドボールにかかわる仕事がしたいとのこと。そんな夢に向かって日々頑張る果凛さんです。

(担当 池淵)

彼女が中学一年生の三学期に若葉に入塾してきました。真面目でしっかり者というのが最初の印象。「先生に対して敬語で話さないとダメですよ。」と、仲の良い友達にも臆さず注意できる稀なタイプです。芯が強く、はっきり言葉にするのに周りから好かれているのは、優しく天然なところも持ち合わせているからでしょう。

美紅さんは勉強の面でも輝くものを持っています。一年生の頃と比べ、定期テストの五教科の点数は百点ほど上がり、学年順位も六十人位ごぼう抜きしています。普段の意欲的な態度や努力する姿勢が、こういった結果になったのだと思います。

そんな彼女の今の目標はデザイナー。新型コロナウィルスの影響で学校の友達と会えないときにはYouTubeでデザイナーの動画を見ているそうです。絵を描くことが好きな彼女にぴったりの夢ですね。これからも夢に向かって頑張ってください！

(担当 古徳)

# 卒業生はいま!



株式会社ケーオウエイ  
第1システム営業部主任  
森脇 有恒さん

office&campus



今年度からiPadを利用した授業を小4と中1クラスではじめました。開講にあたり、各フロアの無線環境を整備する必要が生じました。以前、米子校舎建築に携わってくださった通信工事に依頼したところ、システム構築の部分はケーオウエイ様にお世話になることとなりました。ケーオウエイ様といえば新校舎建築後に事務用品を必ずお世話になります。いま教務室で使っている机も椅子も大きなキャビネットもそうです。そのイメージと無線環境の整備が直接結び付かずにいました。

さて、森脇さん。その日、システム営業主任として、私たちの要望を聞いてくださいました。どこかで出会ったことのあるお顔だと思いましたが、なにかと有利であるう「通学してました」などと一言も告げずに、こちらの要望を聞いてくださいました。はっと気づかされたのはお帰りの後でした。そのことを後の取材時にお話すると「最初は社員としてお客様と接したい」と信条をお話してくださいました。

おもい通りのCMの話題にだり「テレビを持って走るCMに出ていました。ホームページで見てください」「CMは自社で考えて作成していますよ」と楽しそうに即答くださいました。まるで「先生は出演するのをはずかしいと思ってるでしょう?」と見透かされた気がして、申し訳ない気持ちと裏腹に、企業の若さとパワーをうらやましく思いました。このいい男が、こんなにていねいに日々を過ごしているなんて、正直嫉妬します。今後長くお世話になります。

(担当 佐布)

## 打ち水と軽やかなTシャツで暑気払い! 気分爽快、倉吉の夏!



倉吉校舎では今年の夏も、連日、夏期講習が開催されました。しかしいつもの夏期講習とは少し違いましたね。

受験シーズンである冬ならよくある光景なのですが、コロナ禍で、ご覧のようにみなさんがマスク着用でした。教室は常に換気を心掛け、窓を開放した状態です。冷房と外気が混じる中の授業でしたが、集中してがんばってくださいました。

倉吉の夏の風物詩といえば、生徒を玄関で迎える打ち水です。水撒きをしているTシャツ姿も今後の夏の風物詩となるのでしょうか。このTシャツは夏期講習期間限定のユニフォームで、気持ちをひとつにして徹底指導する意欲です。

Tシャツのロゴにあるように、この夏、みなさんに、予習の練習のパーフェクト・サポートができたのでしようか。

(担当 濱)

## 学園NEWS

倉吉校舎

## 職員随想

いつか晴れた日に

井田 華子



夏の暑さが極端に苦手な私は、毎年この時期を憂鬱な気持ちで過ごしているのですが、今年はコロナ禍ということで、いつも以上に憂鬱な毎日を送っています。移動や行動が制限され、友人にも会えない日々は、いったいいつまで続くのでしょうか。ゆっくりと少しずつ溜まっていくストレスを、なかなか解消できずにいるのですが、多くのイベントや大会などが中止になる中でも健気に耐える子供たちをはじめ、辛い状況にある人々を見てみると、普段どおりに近い生活ができていることへの有難みを実感させられます。こんな状況だからこそ、ため息や不平不満は控えて、明るさと元気で優しい気持ちを少しでも取り戻したいと思うので、何か好きなこと、楽しいことを書いてみたいと思います。

コロナ禍の今ももちろん自粛中なのですが、私にとって好きだと思うことの一つに旅行があります。面倒くさく旅行は嫌いだという人もいるかと思いますが、現実逃避が好きなら私にとっては、旅行は日々の生活を忘れ、非日常を楽しむことができる最高の方法なのです。非日常感を求めるため、国内よりは海外、団体ツアーよりも少人数での個人旅行が好きなのですが、初心者なので行先はカタコトの英語が通じる、安全でメジャーな観光地を選んでしまっています。どこが現実逃避だ!非日常はどこへ行った!という声が聞こえてきそうですが、たいてい先が安全でメジャーな観光地であっても、そこで普段とは違う言語で現地の人たちと触れ合ったり、普段とは違う食事や街並みを楽しむ。

み、行先が合っているのかドキドキしながら電車やバスに乗ることは、私にとっては十分に非日常的で、時には起きる小さなハプニングや、不便だと感じることもさえも、楽しいと思ってしまうのです。

これだけ旅行の良さを語っておいて恥ずかしいのですが、実際はまだ十ヶ国しか行ったことがありません。まだ見ぬ地への憧れは募るばかりですが、幸いなことに友人や家族が旅行好きのため、彼らの話を聞いては、旅行の疑似体験をさせてもらっています。ある友人は世界一周旅行の際にリアルタイムで写真付きのブログを書いていたので、真正正銘の非日常を、毎日ワクワクしながら見守っていました。さすがに、彼らのような情熱と行動力は持ち合わせていないのですが、せめてあと十ヶ国ぐらいは厳選して行ってみたいと思っています。

これまでの自分の旅行を改めて振り返ってみると、多くの楽しい思い出がよみがえります。友人が案内してくれたイギリス南西部の美しい田舎町。香港とバンコクの混沌とした活気ある街並み。カンボジアの暑さは辛かったけれど、アンコールワット、ペンメリア、コーケーなどの遺跡は思わず息をのむような存在感で、その衝撃は忘れられません。オーストラリアの森と満天の星空をもう一度見てみたいし、韓国とベトナムの料理が恋しいです。ロンドンでのサッカー観戦やバンコクでの新年のカウントダウンなど、挙げるのにキリがないのですが、不思議と思いつくだけで、幸せな気分になってきました。

思い出しは美化されると言いますが、辛い日々を癒してくれる薬にもなります。コロナが収束して、大切な人と新たな思い出を作る日が来ることを願わずにはいられません。時には美しい思い出に浸りたいと思いがちで日々を過ごしていきたくて思っています。みなさんの素敵な旅行話も、機会があればぜひ聞かせてください。